

深日地区福祉委員会通信

= 第 12 号 = 2025(令和 7)年 2 月 1 日 深日地区福祉委員会(連絡先:加門憲文 479-8464)

昨年 11 月 1 日 体操・ゲーム・おしゃべりでリフレッシュ 合同いきいきサロンを開催

例年であれば、3 月に実施されていた合同いきいきサロン。今年度は 11 月 1 日(金)の実施となった。100 名以上の参加で、会場は大盛り上がり。

大勢の人が一同に介し体操をするということで、会場設営にひと苦労? 講師として迎えた岬町立保健センターの松井先生にも事情を話し、スペースが少ない場所でも皆が楽しく安全にできる体操や脳トレをお願いした。



思わずクスッと笑ってしまう松井先生の面白いトークに引き込まれながら、いつの間にか体操や脳トレに夢中になっている参加者。その後、茶話会・ビンゴゲームで深日会館は、笑い声と歓声で熱気ムンムンとなった。

身体を動かし、沢山の人とおしゃべりし、脳を働かせ、笑い・・・等々。長生きに向かうための健康に良いことをわずか 2 時間の間にぎゅっと詰まっていたのではないのでしょうか。沢山の方の参加ありがとうございました。(高倉 雅代)

岬中学校・深日地区住民(北出・若宮)協働の避難訓練を実施



昨年 11 月 8 日、岬中学校で生徒・住民協働の避難訓練があり、北出・若宮の地区の住民、深日自治区長の有志および深日地区福祉委員も参加しました。この避難訓練は、コロナ感染症拡大のため中断し、4 年ぶりの開催となりました。中学校側の主導の下、岬町の危機管理担当の協力を得て、2 時限を使い、中学生全員と合同で避難訓練を実施しました。

「10 時 30 分に地震発生、建物の一部が損壊し、津波警報が発令された」との想定で全員が岬中学校グラウンドに避難。その後体育館に移動し、危機管理担当者による能登半島支援活動報告があり、最後に、岬中学校で保管されている災害用テントの設営体験を全員で行いました。中学生のきびきびした作業でテント 16 張りを一気に設営することが出来ました。

昨年 1 月、能登半島で震度 7 の地震が発生しました。私達の近くにも東南海・南海地震や上町断層地震等の巨大地震が発生する確率が高いと言われています。今回の避難訓練を通じて、参加者全員が改めて防災・減災の意識を高めることができました。(川端 修)

深日小学校で「昔の遊び体験交流」を実施



昨年 11 月 14 日、深日小学校において、小学 1 年生の児童と一緒に、「昔の遊び体験交流」を行ないました。昔の遊びは、画面に向かって座り続ける TV ゲームとは違い、シンプルなルールのもので、だれでも参加しやすく、費用もかけずに遊びごとなができます。また、身体能力やコミュニケーション能力向上等のメリットがあり、昔から日本で親しまれてきた子どもの遊びで、伝承遊びとも呼ばれています。

さて今回は、「おはじき」「まりつき」「こままわし」「けん玉」の 4 種目で、3 グループに分かれ、全員が順番にすべての遊びを体験しました。1 年生の児童は、ほぼ初めての体験で、最初は何度やってもうまくできずにイライラしていましたが、時間がたつにつれて上手になり、その上達の早さに驚かされました。

私は 60 年間のブランクもあり、ほぼ初心者でしたが、子どもと一緒に遊ぶことで、何とかできるようになり、昔の遊びを児童と楽しむことができました。交流の最後に、中村(勲)さんの指導で紙飛行機を作成、全員で飛ばして大いに盛り上がりました。(嘉戸克美)

マダン劇「そのまなざしのむこう」を鑑賞(10/30 岬中学校)

マダン劇とは観客も参加する劇のことで、中学 3 年生や先生が即興で演じると、会場は大いに沸いた。劇団「タルオルム」の団長キムヨンスさんは、NHK の朝ドラ「虎に翼」で闇市の焼き鳥屋の女将役を好演。「アリラーン アリラーン」彼女の深みのある美しい歌声と民族打楽器の音色は魂を揺さぶる。物語は、戦後父親を捜しに、チェジュ島から大阪にやってきたソンヒの一生を描く。60 歳で初めて学ぶ喜びを知るソンヒ。時には笑い、時には涙する。たくましく生きる姿が感動的だ。(中村 勲)



その時から学校は変わった 8 月 6 日・平和教育体験学習

昨年 8 月 6 日、松尾光造さん(95 歳)に戦時中のお話を伺う 5 年生の平和教育体験学習が実施された。

松尾さんが小学校に入学した時には、体をのびのび伸ばすことができ、勉強も遊びも楽しかったそう。ところが、日中戦争が始まり様相が一変。多くの国民が兵隊に召集されるようになる。深日で初めて召集令状を受け取ったのは松尾さんのお兄さんを含む 3 人だった。「おめでとうございます。あなたの息子様は兵隊に召集されました」と言われて赤紙を手渡されたそう。その 3 日後、「宮さん」(国玉神社)の下で、日の丸の旗を持って見送る家族や生徒の前で一人一人が「これから元気で行って参ります」と挨拶。それから「万歳」の声と行進曲を聞きながら 3 人は所属する連隊へと向かって行った。それ以来、学校は変わって

いく。奉安殿への登下校時の挨拶、勉強よりも家の手伝い等、戦時教育が強化され、窮屈な日々を強いられるようになったそう。(中村 勲)



松尾光造さん(95歳)は、民生委員児童委員を 20 年務め、現在は長生会に所属、福祉ボランティアに協力されています。